



# すべての学習の基盤となる協働性の育成

協働性フォーラム主任

越村 尚貴

## 1 協働性とは

附属新潟小学校では、これまでに「学級力」を高める取組や「対話する」スキルを高める取組を提案してきました。それぞれの定義は次の通りです。

「附属新潟式学級力」  
子どもが支持的な学級風土を創っていきこうとする力  
「対話する」スキル  
相手の話を分かろうとして聴く話の聴き方

これらの取組における子どもの姿を分析する中で、次のことが分かってきました。

「附属新潟式学級力」と「対話する」スキルは、他者と協働するために必要な資質・能力という点で共通している。

具体的には、他者の考えを分かろうとして聴く姿や、互いのよさを生かして課題を解決しようとする姿が見られたのです。私たちは、子どもが発揮していたこれらの力が、これからの社会で様々な困難や課題に直面したときに必要となる資質・能力ととらえ、学習の基盤として「協働性」を設定しました。定義は次の通りです。

**【協働性】**  
他者と目的や課題を共有し、互いのよさや多様性を生かして課題解決する力

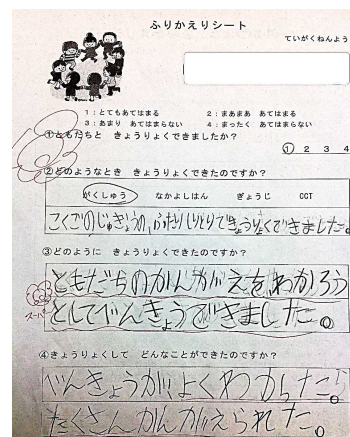
そして、「附属新潟式学級力」や「対話する」スキルを高める取組だけでなく、教育活動全体でこの協働性を高めていこうと考えました。

## 2 協働性を育成する仕組み

協働性は、主に「学級力」や「対話する」スキルを高める取組を行う「クラスカルチャ

ータイム」「各教科等の授業」「学校行事」「特別活動」の教育活動において、協働性を発揮させています。そして、新たに設定した「リフレクションタイム」で、協働性の自覚を促す取組を繰り返すことで育成するのです。

今年度自覚を促す取組として、リフレクションタイムを金曜日のクラスカルチャータイム枠に位置付けました。



子ども自身が活動を振り返り、協働性を発揮できたかどうか、どのような成果があったのかを、リフレクションシートに記述します。担任は、ただ書かせるだけではなく、写真や動画などで活動の様子を想起させたり、記述を価値付けたりすることで、協働性を発揮したことやそのよさの自覚を促します。

さらに、毎月の「スマイルミーティング」(学年部による情報交換会)で、リフレクションシートを持ち寄り、活動の成果と課題について話し合います。ここで話し合われた内容は、「学級力」を高める取組や「対話する」スキルを高める取組であれば、すぐに改善に向けた視点として生かされます。学校行事であれば来年度の計画に反映されるように、行事担当者へ提案するという仕組みになっています。

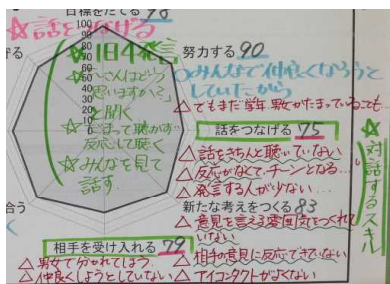
このように、組織的な取組として機能するためには、プロジェクト部会が課題を分析し、よりよい取組となるような指針を示すこと。そして、示した指針を基に実践できているのかを確認することが大切です。

### 3 協働性を育成するための取組

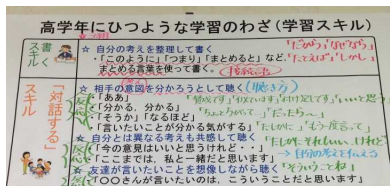
協働性を育成するために、大きく二つの教育活動に着目して取り組んでいます。それぞれについて詳しく説明します。

#### ①「学級力」を高める取組と「対話する」スキルを高める取組とを関連付けて協働性を育成する

各学級が月1回を基本的なスパンとして学級力アンケートを実施し、集計結果をレーダーチャートに表しています。そして、子どもと教師で、レーダーチャートを見ながら、学級の課題やこれからの取組を話し合います。



これまでの「学級力」を高める取組から、八つの項目（詳細は参考文献を参照）のうち、特に「相手を受け入れる力」や「話をつなげる力」の評価が低くなる傾向があることが分かりました。



これらは「対話する」スキルと関連する内容項目です。そこで、教師は意図的にこれらの項目を取り上げ、なぜこのような結果になったのかを問うことで、子どもに課題意識をもたせます。相手を受け入れることや、話をつなげることに課題意識をもった子どもは、解決策として、「対話する」スキルに着目します。各学級には、各学年で身に付けたい学習スキルがポスターで掲示されています。子どもは、その学習スキルポスターに示されている項目にさらなる工夫を加えて、CCTや授業で意識して取り組むことで、学級をよりよくできるのではないかと考えます。

#### ②学校行事を協働性育成の視点で見直し協働性を育成する

協働性育成の観点から、行事担当者が学校行事の内容を見直して立案・実施します。附属アートミュージアムを例にして説明します。

附属アートミュージアムでは、異学年で編成された縦割りなかよし班で協力して一つの作品づくりに取り組む「わくわく造形広場」という活動があります。今年度は『絵本の世界をあらわそう』を共通テーマに、各班で絵本を選び、その世界を立体作品にして表現しました。



事前にどのような作品に仕上げるか話し合った子どもたちは、自分たちが作りたい作品イメージを共有して活動に取り組みました。作品づくりに取り組んでいる子どもたちの近付くと「木がうまく立たないんだけどどうしたらいいかなあ」「きっと土台が安定していないからだよ」「じゃあ、土台が安定するように紙を重ねて頑丈にしよう」などと困っている子どもに寄り添い、その解決策をみんなで解決していく姿が見られました。まさに協働性を発揮している姿と言えます。

#### 4 協働性を発揮した姿を紹介します

2月8日(木)初等教育研究会1日目に、協働性フォーラムを開催します。附属新潟小学校の取組から、協働性を発揮した具体的な姿を紹介します。また、新潟大学大学院教育学研究科准教授 一柳智紀様を講師としてお迎えしご講演いただきます。皆様のご参会を待ちしております。

[参考文献]

附属新潟小学校、「Let's start 附属新潟式学級力」(2014)

附属新潟小学校、「対話する」スキルで子どもが変わる！授業が変わる！」(2016)